

エジプト学研究第 18 号 2012 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.18, 2012

目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
第 4 次ルクソール西岸アル=コーカ地区調査概報	近藤二郎・吉村作治・菊地敬夫・柏木裕之・河合 望・西坂朗子・高橋寿光	5
エジプト ダハシュール北遺跡発掘調査報告―第 16 次・第 17 次発掘調査―	吉村作治・矢澤 健・近藤二郎・馬場匡浩・西本真一・柏木裕之・秋山淑子	21
2011 年太陽の船プロジェクト活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	69
〈研究ノート〉		
両面加工石器製作の生産体制について		
―ヒエラコンポリス遺跡エリート墓地出土資料の分析から―	長屋憲慶	77
〈卒業論文概要〉		
岩窟墓の形態変化とアマルナ時代の影響	熊崎真司	85
〈活動報告〉		
2011 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告		93
2011 年 エジプト調査概要		97
〈編集後記〉	近藤二郎	103

The Journal of Egyptian Studies Vol.18, 2012

CONTENTS

Preface	Sakuji YOSHIMURA	3
Field Reports		
Preliminary Report on the Fourth Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian ExpeditionJiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI, Nozomu KAWAI, Akiko NISHISAKA, and Kazumitsu TAKAHASHI		5
Preliminary Report on the Waseda University Excavations at Dahshur North: Sixteenth and Seventeenth SeasonsSakuji YOSHIMURA, Ken YAZAWA, Jiro KONDO, Masahiro BABA, Shinichi NISHIMOTO, Hiroyuki KASHIWAGI and Yoshiko AKIYAMA		21
Report of the Activity in 2011, Project of the Solar BoatHiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA		69
Articles		
Bifacial Flint Production Groups in the Predynastic Egypt: Analysis of finds from Elite Cemetery at Hierakonpolis	Kazuyoshi NAGAYA	77
Summary of the Recent Undergraduate Theses		85
Activities of the Society, 2011-12		93
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2011		97
Editor's Postscript	Jiro KONDO	103

2011年 エジプト調査概要

1. 調査期間および調査参加者（敬称略）

(1) 太陽の船調査

調査期間： 2011年1月1日～12月31日（継続中）

調査参加者： 吉村作治、黒河内宏昌、吉村龍人、ユーセフ・カーリッド、岩出まゆみ、佐々木愛（以上NPO法人太陽の船復原研究所）、アフィフィ・ローハイエム、アイマン・ハーミッド、イーサ・ジダーン、ディア・エルディン（以上SCA）
戸田 勝、河原正純、鈴木幹也、柏木裕之、西坂朗子、高橋寿光、山田綾乃（以上蓋石取り上げ）
増澤文武、青木繁夫、植田直見、山田哲也、カーリ・ステファン（以上サンプリング）

(2) アブ・シール南丘陵遺跡調査

調査期間： 第20次調査 2011年1月25日～2011年2月3日

調査参加者： 河合 望、柏木裕之、熊崎真司

調査期間： 第21次調査 2011年9月3日～2011年10月9日

調査参加者： 吉村作治、河合 望、苅谷浩子、西坂朗子、高橋寿光、熊崎真司、山田綾乃、後藤里英、
福田莉紗、伊東真佑子

(3) ダハシュール北遺跡調査

調査期間： 第20次調査 2011年8月8日～8月30日

調査参加者： 吉村作治、近藤二郎、馬場匡浩、矢澤 健、長屋憲慶、山川彩、青笹基史、
リチャード・ジャスキ

(4) 王家の谷・アメンヘテプ3世王墓調査

調査期間： 2011年10月16日～2012年3月31日（継続中）

調査参加者： 吉村作治、近藤二郎、菊地敬夫、柏木裕之、河合 望、西坂朗子、高橋寿光、
ジョルジョ・カプリオッティ、森 康雄、苅谷浩子、犬井正男、佐藤真知子、中井 泉、
阿部善也、中村彩奈、吉村龍人、ユーセフ・カーリッド、柴田みな、田辺愛理、西村朋子

(5) ルクソール西岸・アル＝コーカ地区調査

調査期間： 第5次調査 2011年12月28日～2012年1月7日

調査参加者： 近藤二郎、柏木裕之、河合 望、西坂朗子、高橋寿光、熊崎真司

2. 調査概要

(1) 太陽の船調査¹⁾

クフ王第2の船の発掘、組み立てを目指す太陽の船プロジェクトは、2011年、主に①蓋石取り上げ、②サンプリングの準備の2つの活動を行った。

①蓋石取り上げ

蓋石の取り上げに向けて、1～6月の期間、ガントリークレーン（蓋石の取り上げ）、台車とレール（蓋石の移動）の施工を行った。そして6月22日～7月26日にかけて、ピットを覆う全40列（41枚）の蓋石と鍵石のうち、SCAの方針で現状保存することになった西端の4枚を除く36列（37枚）を取り上げ、大テントの外に安置した。蓋石取り上げ後のピットは、断熱材入りの板蓋で閉じている。取り上げと同時に、36列（37枚）の蓋石、鍵石および蓋石と岩盤の隙間を塞いでいた詰石を詳細に観察して記録し、それらの施工過程の復原考察を行った。またそれらに記されていた数百点にもおよぶ文字資料をすべて記録し、8月以降その資料化を行っている。

②サンプリングに向けての準備

蓋石取り上げに先立つ5月16～18日、SCAの要請で蓋石取り上げと木製部材のサンプリングに関して、保存修復の専門家による検証を行うワークショップが開催された。このワークショップでは、日本側の4名の専門家および海外から招聘した微生物学の専門家（ステファン氏）がプレゼンテーションを行い、SCAメンバーを交えて協議をした。このワークショップでの合意事項を踏まえ、蓋石取り上げが終了した9月～12月にかけて、サンプリング実施のために、ピット上を覆って空調を行うための小テント、ピット内に人間を降ろすためのエレベーター、小テントに合わせた空調システムの改変、サンプル分析用の小さな現場ラボなど、諸設備の建設を行った。



蓋石取り上げ作業



大テント内の設備建設

(2) アブ・シール南丘陵遺跡調査²⁾

アブ・シール南丘陵遺跡第20次調査は2011年1月25日に先発隊が渡航し、調査が開始されたが、エジプト革命のために、日本国外務省から国外退避が発令されたために、調査を延期することになった。

第21次調査では、発掘調査を計画していたが、アブ・シール～サッカラ地区の治安の悪化等の理由で、延期を余儀なくされ、遺物倉庫での作業を行った。作業の内容はこれまで発掘した遺物の整理、記録、研究と保存修復作業である。対象とした主な遺物は、イシスネフェルトの石棺片、ファイアンス製品、土器が中心である。イシスネフェルトの石棺片は第19次調査の際に埋葬室から移動した数百点の破片で、凶像と碑文を手掛かりに接合作業とトレース作業を進めた。同時に修復師の荻谷浩子氏によりフェイシングと接合作業が実施された。今回の作業で倉庫に保管されている大型の破片の接合がほぼ終わり、今後は現在埋葬室に

安置されている石棺本体との接合が課題である。ファイアンス製品に関しては過去の発掘調査で出土したものも含めて、分類と接合作業が進められた。土器については、主にイシスネフェルトのトゥーム・チャペル背後のピットから出土した土器群と日乾燥瓦遺構およびその周辺から出土した第18王朝中期の彩文土器の資料化が進められた。

期間中にはアブ・シール南丘陵遺跡の視察も実施した。アブ・シール～サッカラ地区では革命後に遺跡の盗掘活動が横行し、甚大な被害が報告されていたが、幸いなことに我々の現場では被害はなかった。



石棺の接合・保存修復作業



部分接合した石棺片

(3) ダハシュール北遺跡³⁾

2011年8月の第20次調査では、サッカラにあるエジプト考古学倉庫にて、遺物の整理作業と倉庫収納状況の改善、第12次調査時に未盗掘で発見されたセバクハトの人型木棺の保存修復作業を実施した。

整理作業では、報告書の刊行に向けてダハシュール北遺跡第1次調査から第8次調査にかけての調査で出土したシャブティを中心に実測、写真撮影を行った。またレリーフブロックやステラに加え、ビーズ等の小型遺物の写真撮影を実施した。そのほか、第16次調査で出土した木製カノボス壺や木製シャブティの実測も行った。

レリーフブロックが金属製の棚の上に覆いの無い状態で収納されていたため、保存修復の専門家リチャード・ジャスキ (Richard Jaeschke) 氏に助言を求め、状況の改善を行った。レリーフブロックの破損を避けるため、金属の棚の上にスポンジのシートを敷き、その上にブロックを置いた。また、直射日光や粉塵がレリーフの上に積もるのを防ぐため、リネンのシートで棚全体に覆いをかけた。



遺物の整理作業



リチャード・ジャスキ氏による木棺修復

セベクハトの人型木棺の保存修復作業はリチャード・ジャスキ氏によって行われた。この木棺は過去の応急的な処置によって、木棺の枠組みにズレが生じており、構造的な歪みが表面の彩色プラスターに悪影響を及ぼしていた。そのため、過去の処置による木棺枠組みの接合や欠損部への綿による充填を取り外し、補強をしながら適切な形に矯正する作業を実施した。今期はほぼ枠組みの矯正と細部の補強に終始した。現状では、過去の処置によって表面に補強のための和紙が貼り付けられている。著しく外観を損なうため、次回の作業で取り外し、保存修復作業を完遂させる予定である。

(4) 王家の谷・アメンヘテプ3世王墓調査

早稲田大学エジプト学研究所は、王家の谷・西谷のアメンヘテプ3世王墓において1989年より調査を継続している。2000年まで15回にわたって行われた考古学的調査に引き続き、2001年から日本国外務省ユネスコ/日本信託基金の助成を受け、またユネスコ、エジプト考古最高評議会の協力を得て、保存修復作業を実施している。2006年からは、これまでの調査で出土した遺物の研究、保存修復が進んだ壁面の記録調査を行っている。

今年度は、2011年10月から、6ヶ月間の予定で壁画保存修復プロジェクトを実施している。これは2001年から開始した作業の継続であり、今期は1. 天井壁画の保存修復作業、2. 壁、柱の亀裂の補強工事、3. 石棺の蓋の保存修復作業の3つを主な作業項目としている。アメンヘテプ3世王墓の天井壁画は、他の壁面と同じくコウモリの排泄物や微生物の影響などで汚れており、また岩盤からの剥離による自然崩落、岩盤の亀裂による被害を受けている。これ以上の崩落を防ぐために、まずコンソリデーション（強化処置）を実施し、その後、クリーニングを行い、壁画劣化の原因となるコウモリの排泄物、微生物の除去を実施している。アメンヘテプ3世王墓内の岩盤の亀裂の中でも埋葬室（J室）の壁と柱に大きな亀裂があり、この亀裂の補強工事が必要である。補強工事に先立ち、これまで亀裂の最終的な記録や専門家による計画細部の打合せを行った。今後、実際の補強工事を行う予定である。また、アメンヘテプ3世王墓の埋葬室（J室）には、赤色花崗岩製の石棺の蓋が残されている。度重なる盗掘により、石棺の身の部分は持ちさされており、また蓋自体も破壊されている。この蓋の接合、クリーニング、そして展示を予定しており、現在、接合、クリーニング作業を継続している。今後、最終的に全て接合し、台に乗せて展示を行う予定である。その他、これまでにエジプト人および日本人の修復師のトレーニング、壁画に使用された顔料などのX線分析調査も並行し



天井の修復の様子



柱の状況

て実施した。

これまで継続してきた王墓出土遺物の記録整理作業およびX線分析調査は2011年12月から2012年1月にかけて実施された4)。また、埋葬室(J室)のアムドゥアト書は、史料化が進められている。今期は、以前の調査で集められた、壁から剥離したアムドゥアト書の破片のデジタル写真撮影を行なった⁵⁾。

(5) ルクソール西岸・アル＝コーカ地区調査

2011年12月28日から2012年1月7日にかけてルクソール西岸のアル＝コーカ地区の第5次調査を実施した。本調査は、新王国時代第18王朝のアメンヘテプ3世治下のハーレムの長、ウセルハトの墓(TT.47)の再発見と調査を主目的としており、第4次調査において前室および奥室の天井の崩落の状況を確認した。今次調査では、前回の調査で想定された墓の規模を手掛かりに、前室の奥壁際にあたる位置から発掘を試みた。その結果、前室の奥壁にハワード・カーターが報告し、現在ブリッセルの王立博物館に収蔵されているアメンヘテプ3世の王妃ティイのレリーフが本来あった場所とそれに隣接するキオスクの内部に描かれたアメンヘテプ3世の図像を再発見したことが最大の成果であった。また、前室内部の状況も確認され、カーターが報告しているように6本の角柱が南北に2列に並んでいたことが想定された。さらに奥室は、東西10m、南北6mの規模をもつ矩形の部屋であることが明らかになった。奥室の南壁の入口に近い部分に壁がんにあり、その中にはウセルハト夫妻とみられる夫婦像が彫刻されていた。カーターは奥室内に2本のパピルス柱があったと報告しているが、内部には大量の土砂が堆積しており、詳細については今後の調査の進展が待たれる。これらの調査の過程では、葬送コーンやシャブティなどが出土した。

その他、第47号墓に隣接する第174号墓、第264号墓で壁面装飾の保存修復作業を実施した。



前室奥壁のレリーフ



奥室内部の夫婦像

註

- 1) 本年の活動は株式会社ニトリ・ホールディングス(似鳥昭雄代表取締役社長)の援助のもとに行われた。
- 2) 調査は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究」(研究代表者:吉村作治)の助成を受けて実施した。
- 3) 調査は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(S)「エジプト、メンフィス・ネクロポリスの文化財保存面から見た遺跡整備計画の学際的研究」(研究代表者:吉村作治)の助成を受けて実施した。
- 4) 調査は日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)「古代エジプト新王国時代の王墓の副葬品の研究」(研究代表者:河合望)の助成を受けて実施した。
- 5) 調査は日本学術振興会科学研究費基盤研究(B)「アメンヘテプ3世王墓に描かれた「アムドゥアト書」の史料化のための調査研究」(研究代表者:菊地敬夫)の助成を受けて実施した。

3. 謝辞

2011年度も早稲田大学古代エジプト調査隊の活動に対し多くの企業様よりご支援をいただきました。ここに記して感謝いたします。

(株)ニトリホールディングス、(株)ダイドードリンコ、(社)全国優良石材店の会、RKB毎日放送(株)、(株)熊谷組、(株)エアーリンク、サントリーウエルネス(株)、(株)ポニーキャニオン、(株)ワイズマート、(株)アケト

また、以下の企業様より調査隊支援の御品をいただきました。感謝申し上げます。(50音順)

(有)青坂商店、アサヒビール(株)、江崎グリコ(株)、エム・シー・シー食品(株)、(株)オーサト、カルピス(株)、共栄製茶(株)、共同乳業(株)、キリンホールディングス(株)、グリコ栄養食品(株)、サントリーピア&スピリッツ(株)、(株)サンライズ、敷島製パン(株)、タカノフーズ(株)、宝酒造(株)、千葉県酒類販売(株)、東海漬物(株)、東京明販(株)、東洋水産(株)、利根コカ・コーラボトリング(株)、中松物産(株)、(株)西川フーズ、日清オイリオグループ(株)、(株)ノニ21、(株)ハセガワ、(株)ポッカコーポレーション、(株)ミツカン、(株)ミツハシ、(株)明治製菓、(株)桃屋、山崎製パン(株)、三菱食品(株)

2012年度も調査に邁進していきますので、ご支援、応援のほど宜しくお願い申し上げます。

エジプト学研究 第18号

2012年3月31日発行

発行所 / 早稲田大学エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.18

Published date: 31 March 2012

Published by The Egyptological Society, Waseda University
1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Institute of Egyptology, Waseda University